

大阪公立大学の学生が、 高齢者施設でお風呂のお悩み事をインタビュー。

高齢者が安心して入浴できるお風呂とは、実際にどのようなものなのでしょうか。

今回、大阪公立大学リハビリテーション学研究科の協力を仰ぎ、

学生の皆さんに高齢者の入浴に関する悩みを探るためのインタビューを行ってもらいました。

訪れたのは、兵庫県西宮市にある高齢者施設「第2シルバーコースト甲子園」。

約20名の高齢者や職員の皆さんに、実物大のシステムバスモデルを使って

実際に体験していただき、リアルな声を集めました。



協力:社会福祉法人 円勝会 第2シルバーコースト甲子園様(兵庫県西宮市)



調査その1

お風呂に「不安」や「不便」を感じることはありますか？

お風呂で感じる「不安」や「不便」。
多くの声があったのは「浴室の寒さ」。

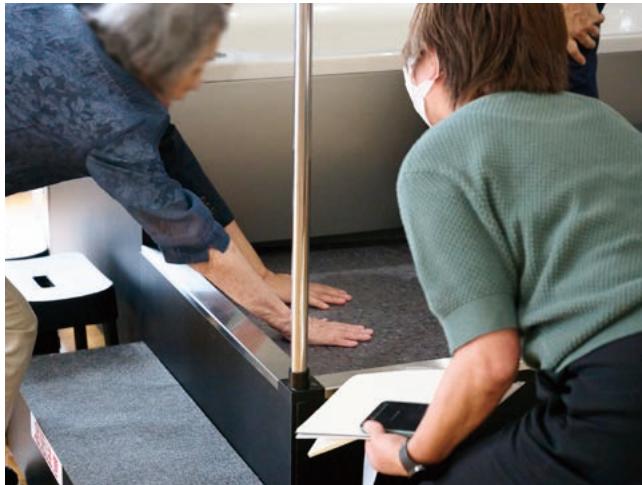
お風呂の不安や不便について高齢者から一番多く寄せられたのが、冬場の浴室や脱衣所の寒さ、床や壁の冷たさです。解決策として入浴前に暖房をつけたり、お湯を床に撒いたりして対処されている方もおられました。特にタイル床は冷たさ・滑りやすさに不安を抱く人が多く、滑り防止のためにすのこを敷くといった対策も取られていました。また、浴槽をまたぐのが大変、浴室乾燥機の使用感が好みでないなど、設備面での不便さを訴える声も挙がりました。





調査その2

お風呂の床暖房について、どう感じましたか？



お風呂の床暖房については
「足元から冷たさを感じず、
快適に入浴できそう」と高評価。

床暖房を試していただいたところ、床が温かいと足元から冷えず、寒さを感じにくく快適に過ごせそうという声が多く聞かれました。温かい床だと安心して入浴できるという心理的な安定感も得られるようで、「気持ちがよい」という感想もありました。また、タイルに比べてユニットバスの床は滑りにくく、怪我のリスクが減りそうと安全面でも高評価。さらに、力が入りやすい、動きやすい、バランスがとりやすそうと身体面でもメリットを感じている方もおられました。



調査その3

お風呂の横手すりを使ってみた感想は？

お風呂の横手すりは
「握りやすく、安心」と好評でした。

縦てすりではなく、平たい形で浴槽に向かって長く伸びたお風呂の横手すりは高齢者の皆さんにとって初めての体験。実際使っていただくと「握りやすく安心感がある」「立ち上がるときに安定する」と好評。横手すりがあると移動時も姿勢が保ちやすいよう、不安も軽減されるようでした。安全面については、滑ったときにすぐに掴めそう、両手でしっかり支えられていいなど、視野が狭い高齢者も掴みやすい横手すりは高い評価が得られました。横手すりの高さについては「ちょうど良い」との声がある一方、「高さ調節ができるとさらに良い」との要望もありました。



インタビューを終えた学生の感想

高齢者の皆さんを感じているのは「お風呂は癒される場所である」と同時に、
「転倒などの危険も潜んでいる場所」ということ。

今回のインタビューを通して、高齢者が安心して入浴できるための設備のあり方や、今後の改善点について多くの示唆を得ることができました。今回、インタビューにご協力いただいたほとんどの方が80歳以上でしたが、皆さん非常にいきいきとされている姿が印象的でした。そして何より、入浴に対する関心の高さを強く感じました。一方で、「お風呂は癒される場所である」と同時に、「転倒などの危険も潜んでいる場所」という認識を多くの方が持っておられたことも印象に残っています。私たちは、日常生活の中で入浴時の危険を意識することは少ないです。しかし、今回の経験を通じて、健康や安心を支えるための設備や器具、そしてサービスの重要性を改めて実感しました。これからさらに進む高齢化社会において、こうしたニーズはますます高まっていくと考えます。